

2.感染対策

2-3.環境整備

新型コロナウイルスの 感染経路

大きい飛沫：数メートル先まで飛ぶ

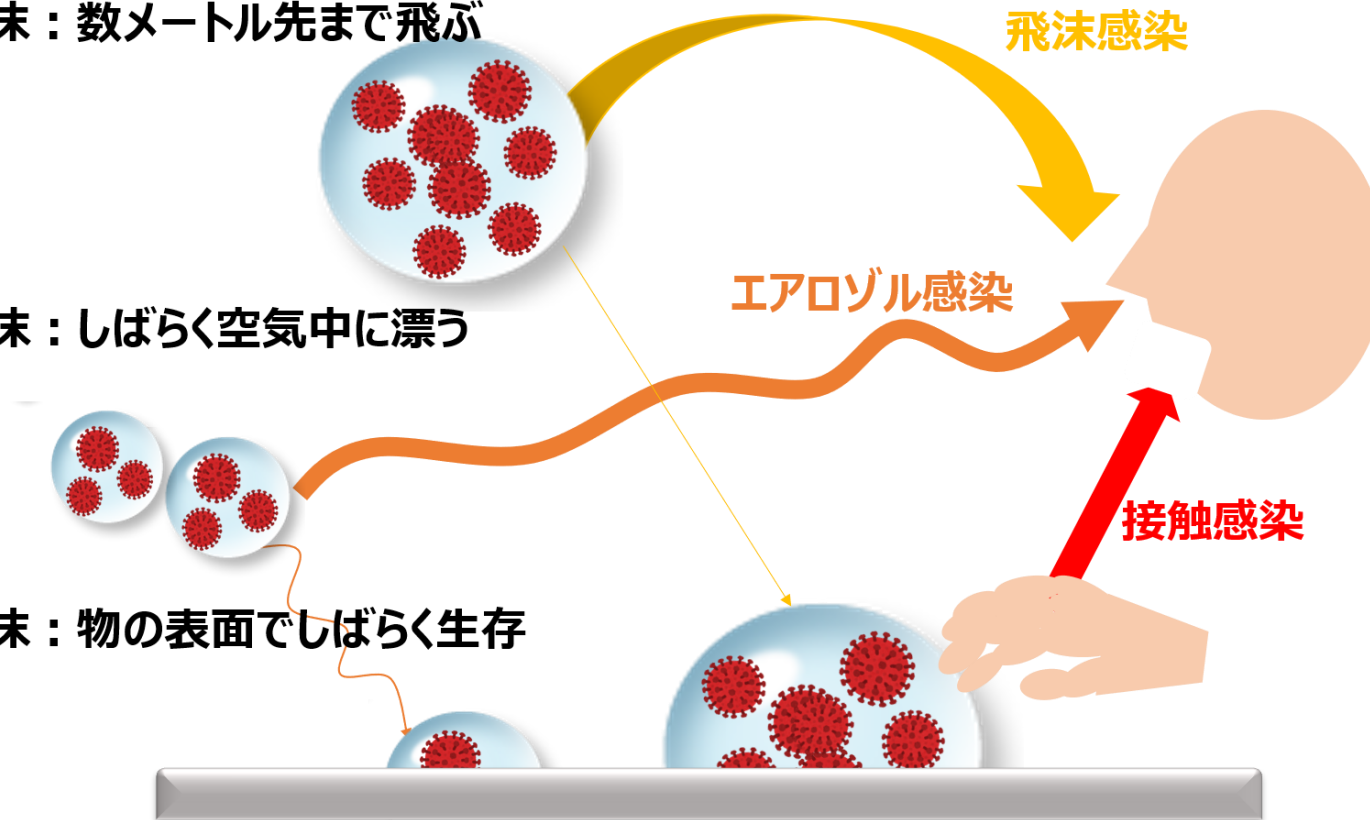
飛沫感染

小さい飛沫：しばらく空中に漂う

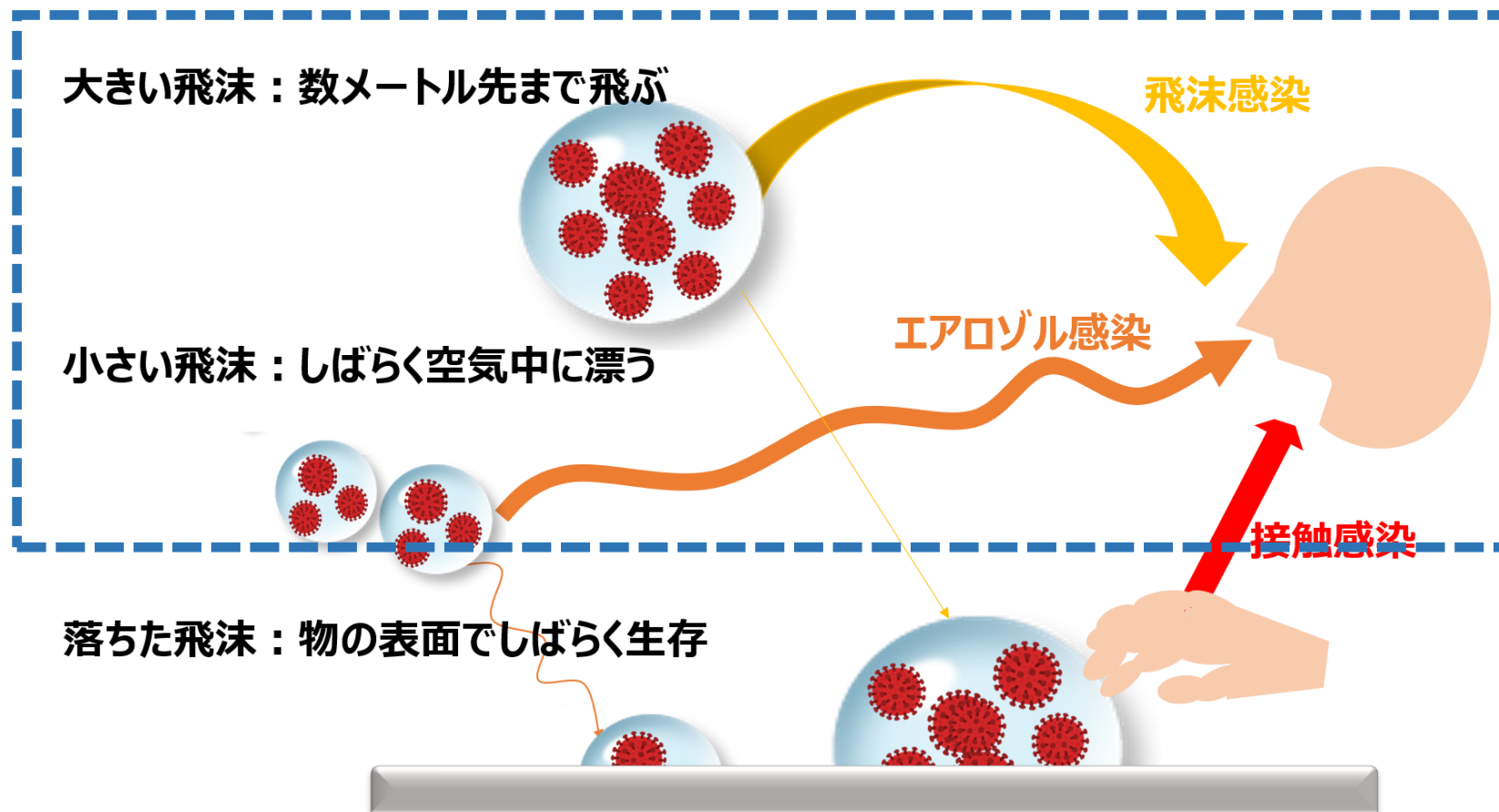
エアロゾル感染

落ちた飛沫：物の表面でしばらく生存

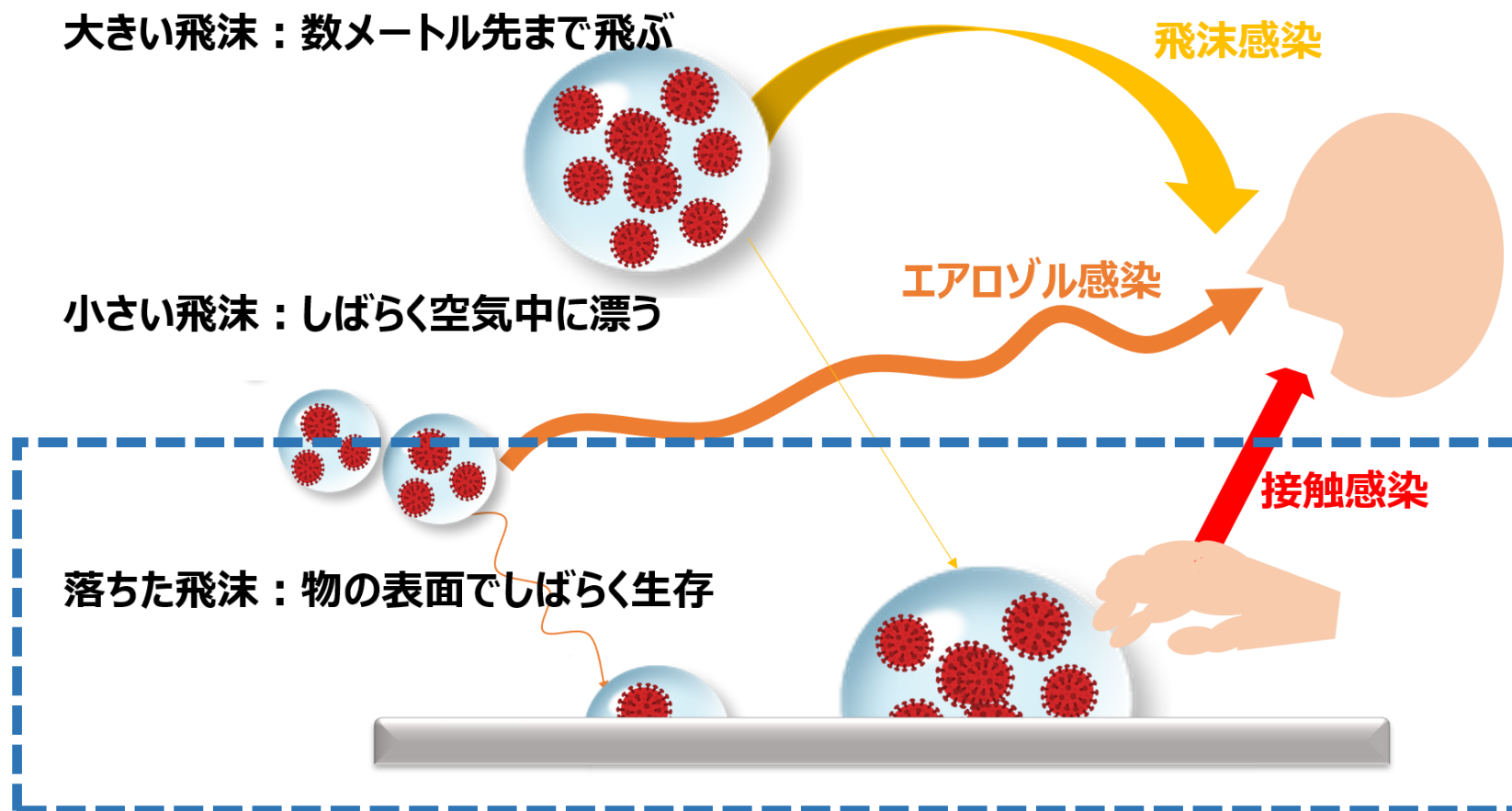
接触感染



新型コロナウイルスの 感染経路



新型コロナウイルスの 感染経路



新型コロナウイルスの 感染経路

接触感染

感染した人がせきを手で押さえたあとや



新型コロナウイルスの 感染経路



新型コロナウイルスの 感染経路

接触感染



ドアノブ、スイッチなどに触れる

新型コロナウイルスの 感染経路

接触感染

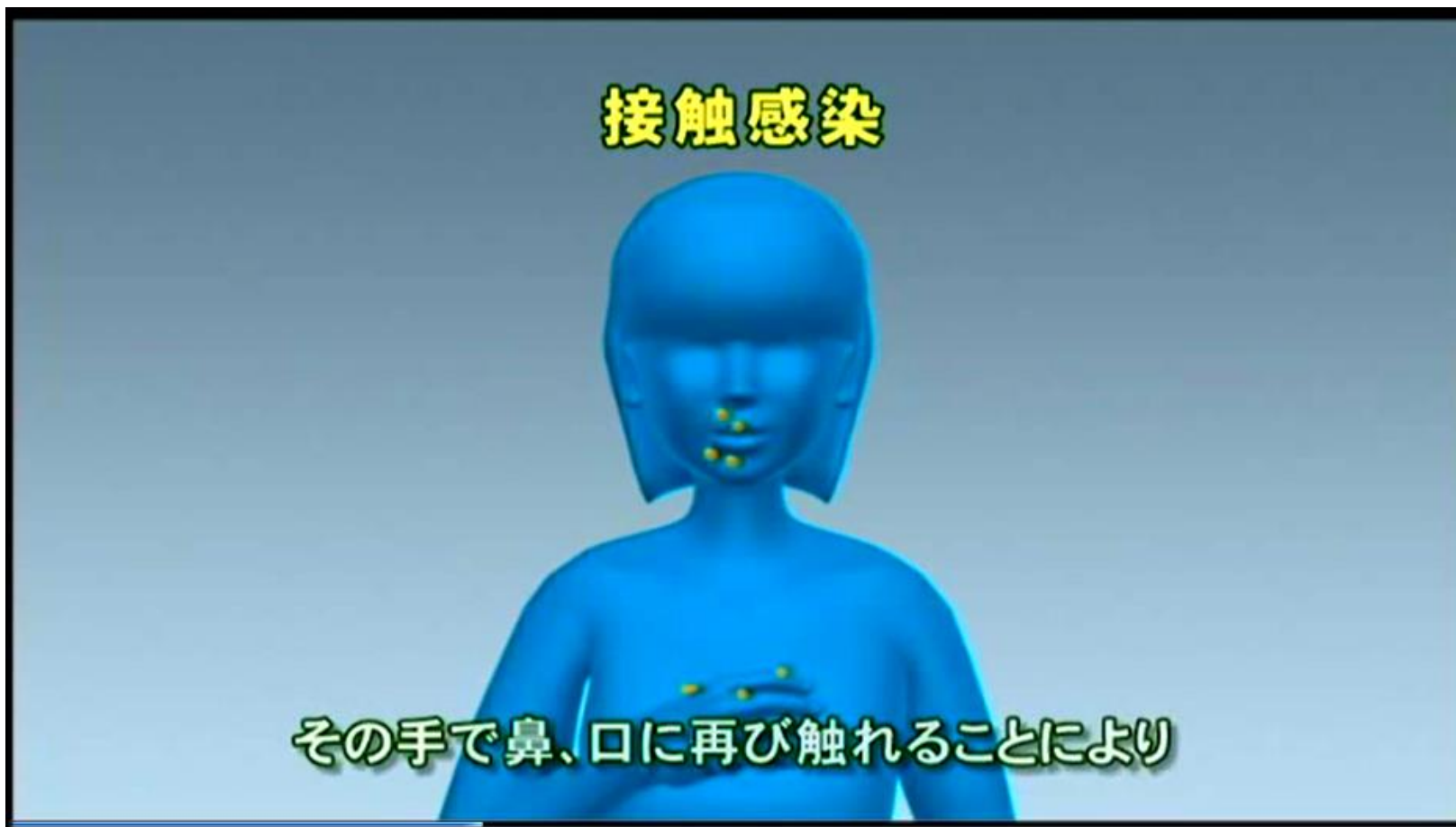


付着した場所に健康な人が手で触れ

新型コロナウイルスの 感染経路

接触感染

その手で鼻、口に再び触れることにより



新型コロナウイルスの 感染経路

接触感染

粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染する



施設内の環境整備も重要

院内感染を防ぐために 私たちにできること

Point 1 手指衛生の遵守

感染対策は手洗いに始まり、手洗いは「手消毒剤」を用いるようにするのが正しいです。正しい方法で実施しましょう。

CDガイドラインでは、手洗いに目に見えない汚れがある場合は「流水と石けん」を、目に見える汚れがある場合は「手消毒剤」を用います。

正しい手洗いの仕方

①流水で手を濡らし、石けんをよく泡立てる。 ②手のひら、手の甲、指の関節を洗うようにしっかりと洗う。 ③手首まで洗った流水で石けんをすすぐ。 ④ペーパータオルやハンカチでやさしく拭く。

ポイント
爪は短く切り、指輪は外してきましょう。
③～④を15秒以上かけて行いましょう。

Point 2 マスクを正しく着用

・ひだを伸ばして、顔と鼻の形に合わせる。
・鼻と口を完全に覆う（あごの下まで）。
・めがマスクになっていたり、鼻が出ないよう注意する。

Point 3 職場でも重要な3密回避。医療従事者同士の感染を防ぐ

会議など集合形式で実施する場合、会議時間や、座席配置、換気、マスク・手消毒剤の使用など、ルールを決めておきましょう。

対策としては以下の事項を守りましょう。

- ①ドアと窓を開け換気をよくする。
- ②対面飲食を避けるため向かい合っている席を避け、一定の間隔を設ける。
- ③食事は時間をずらすなど、少人数となるよう考慮する。
- ④食事中の会話はある程度控え、終了後は速やかにマスクを着用する。
- ⑤換気設備をこまめに実施する。

Point 4 環境対策(共有部分の消毒)をしっかりと行う

高頻度接触部位(ドアノブ、ベッド欄、手すり、エレベーターのボタン、スイッチ、テーブル、パソコン、電話、多数の患者が使用する器具など)や、スタッフが共用するパソコンやスマートデバイスなどは、定期的に拭き取り消毒する。

Point 5 職場でも日常的な健康状態の確認を

職員から感染者が出ると、施設内でのクラスター発生になる可能性があります。新型コロナウイルス感染症の初期症状は、発熱、咳など普通の風邪と類似の症状がほとんどです。このため風邪症状がみられるときには、そのまま出勤せず、必ず職場長に相談しましょう。早期対応が重要です。

Point 6 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の導入

アプリ導入により、早期発見・早期対応（検診等）につながります。症状がない場合も、万が一に備えての自己確認など、他者への感染を防ぐ行動を取りやすくなります。

Point 4 環境対策(共有部分の消毒)を しっかりと行う

高頻度接触部位(ドアノブ、ベッド欄、手すり、エレベーターのボタン、スイッチ、テーブル、パソコン、電話、多数の患者が使用する器具など)や、スタッフが共用するパソコンやスマートデバイスなどは、定期的に拭き取り消毒する。



環境整備とは

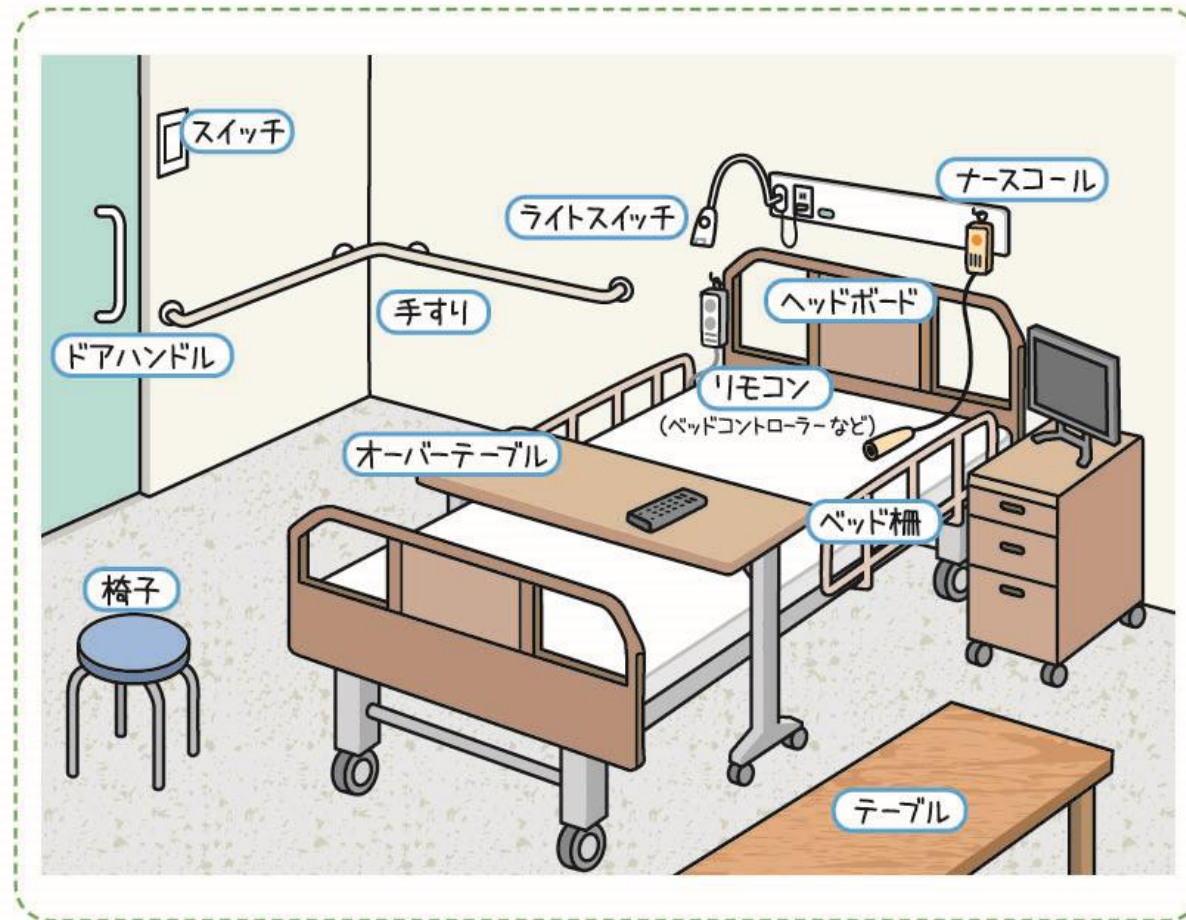
【目的】

療養環境や居住空間を清潔な状態に保つ

【ポイント】

1. 高頻度接触面を中心に1日1回清掃
2. 低頻度接触面は定期または汚染時に清掃
3. 清掃時は手袋着用（必要時エプロンやマスク）
4. 定期的な換気

入所者や利用者、職員がよく触れる部分



高頻度接触の清掃
(1日1回)

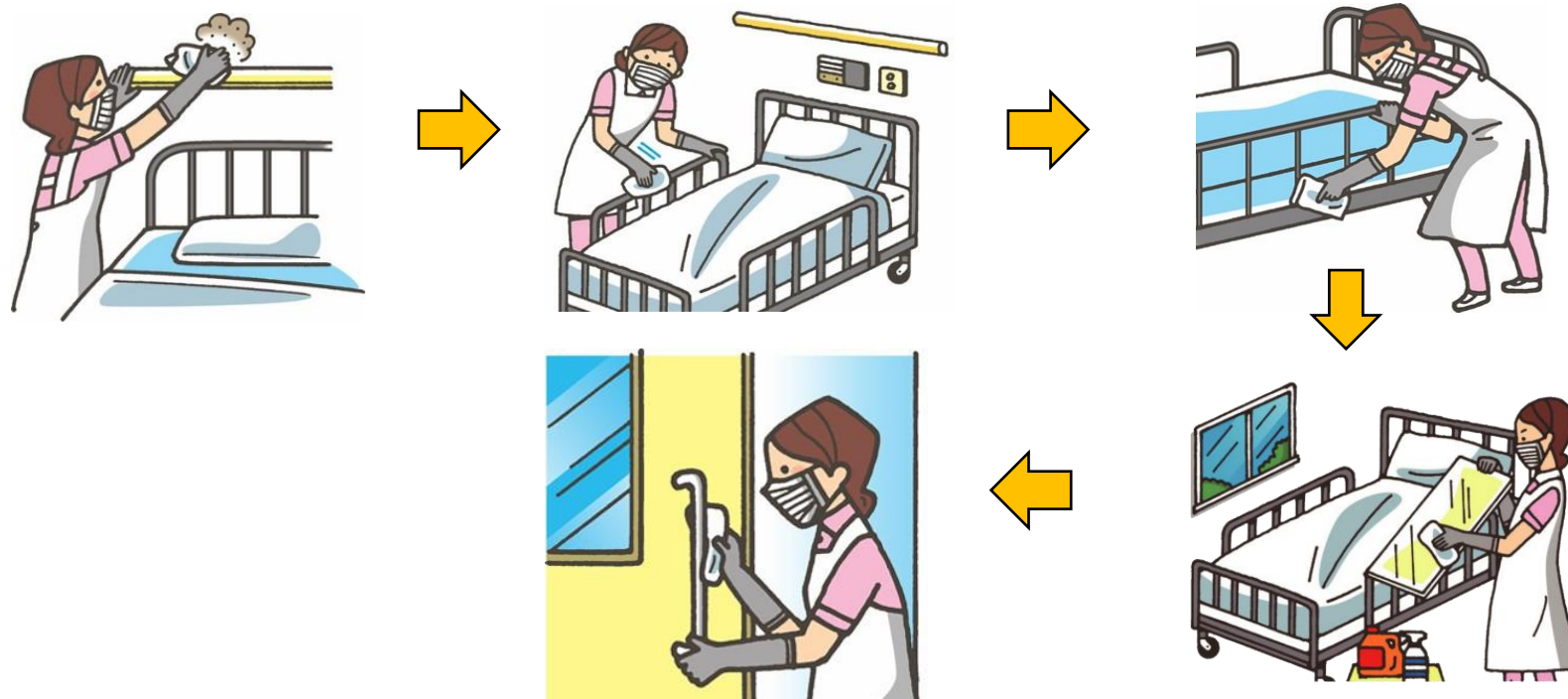
微生物を可視化

ベッドコントローラーの培養結果



清掃の基本

- ① 清掃時は手袋を着用（必要時マスクやエプロン）
- ② 清掃順は、高所から低所へ、部屋の奥から入口へ
- ③ ホコリをたてないように湿式清掃



共用部と職員エリアも 清掃



共用部の水回りは 要注意

【洗面所】

- 歯磨きなどで微生物が飛散
- 水洗レバーやシンクをしっかりと清掃
- コップや歯ブラシなど私物は置かない



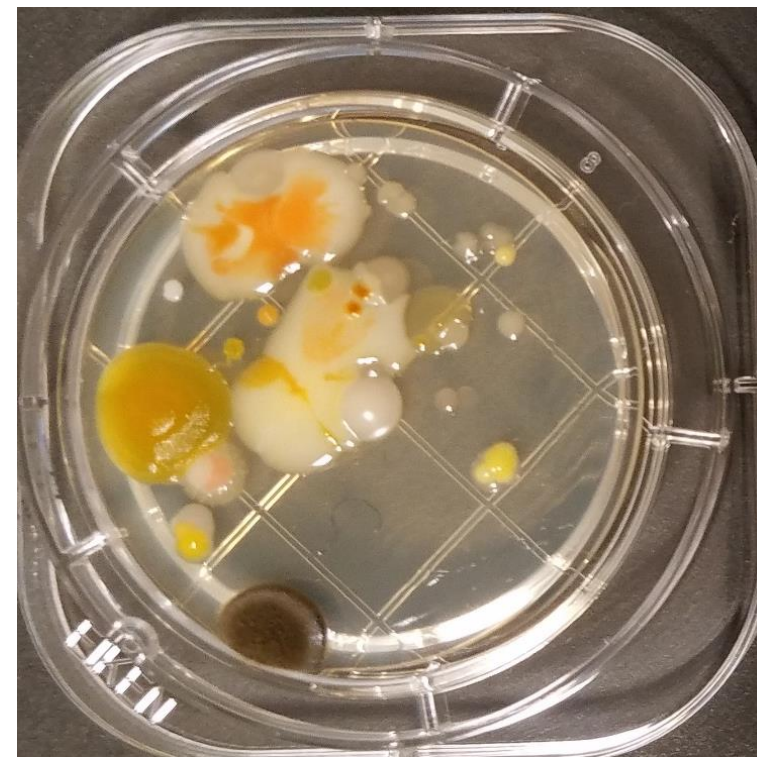
【トイレ】

- ノロウイルスや薬剤耐性菌の温床
- 便座のほか手すりやボタン等も清掃



微生物を可視化

便座の培養結果



清掃時の消毒薬

- ① 消毒用エタノール（70～90％濃度）
- ② 第四級アンモニウムなどの界面活性剤
- ③ 次亜塩素酸ナトリウム溶液



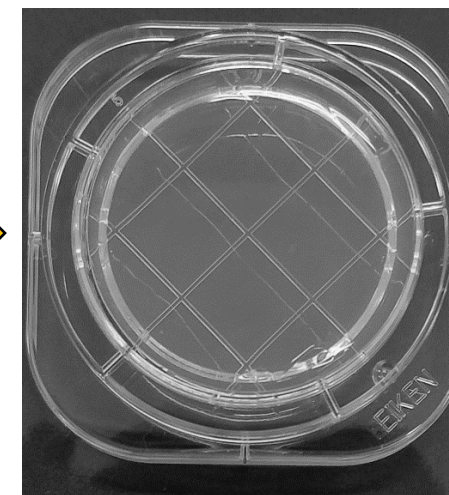
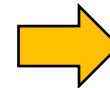
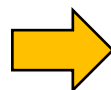
消毒対象	濃度(希釈倍率)	希釈方法*
・おう吐物や排泄物が付着した床の消毒 ・衣類等の漬け置き	0.1%濃度 (1,000ppm)	 500mL  5mL 500mLのペットボトル1本に対し、10mL (ペットボトルのキャップ2杯)
・食器等の漬け置き ・トイレの便座、ドアノブ、手すり、床等	0.02～0.05%濃度 (200～500ppm)	 500mL  2mL 500mLのペットボトル1本に対し、2mL (ペットボトルのキャップ半杯)

消毒効果の可視化

職員エリアのパソコン（キーボード）の培養結果



消毒前



消毒後

低頻度接触面の清掃

床

湿式清掃
排泄物や血液による汚染時は消毒

壁

汚染時清掃

カーテン

汚染時交換や定期交換

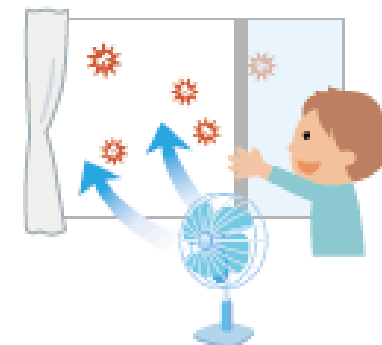
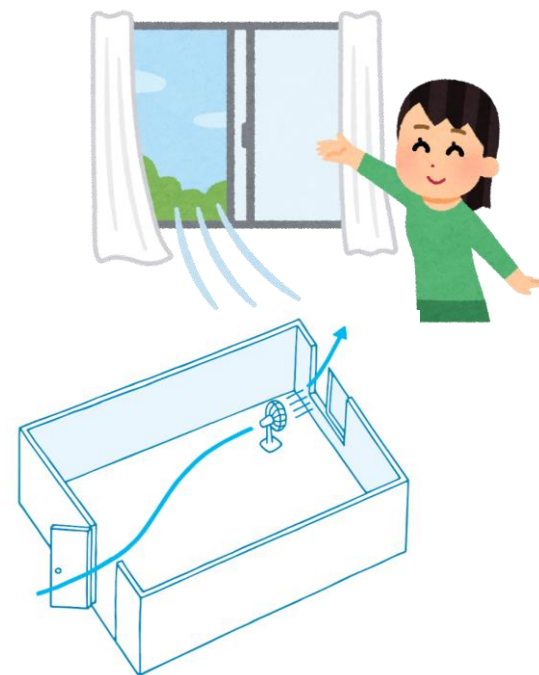


換気

- 1 時間に 2 回以上、数分間／回

- 風の流れることができるよう、できるだけ対角線上の 2 方向の窓を開ける

- 窓がひとつなら玄関を開けたり、扇風機や換気扇の併用で効果が上がる



まとめ

【新型コロナウイルス感染症対策での環境整備】

1. 高頻度接触面を中心に **1 日 1 回** 清掃
2. 低頻度接触面は定期または汚染時に清掃
3. 清掃時は防護具着用
4. 定期的な換気

環境整備の**手順**を**マニュアル化**することが重要

実施者、清掃場所、手順や頻度などを明記

外部委託している場合は、どのように清掃しているか確認